

今年5月10日「地質の日」に日本地質学会から全国都道府県の「岩石」「鉱物」「化石」が発表されました。それによると秋田県の場合は次のように選定されました。

岩石：硬質泥岩こうしつひいがん

鉱物：黒鉱くろこう

化石：ナウマンヤマモモ

いずれも八峰白神ジオパークに産出します。

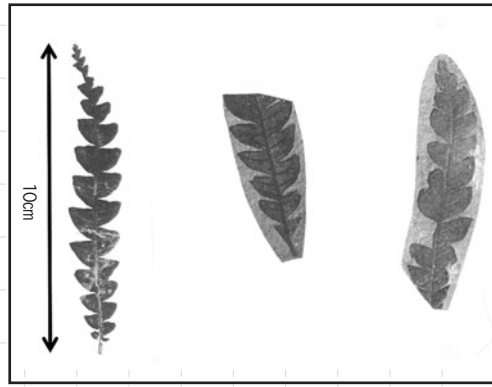


図.1 ナウマンヤマモモの化石

化石「ナウマンヤマモモ」

図1の様な少し変わった葉の形をしていて目立ちます。専門家はこれを「三角裂片型」と呼んでいます。

八峰白神ジオパークでは真瀬川

の支流の一つである八代沢のかけや河原に転がっている石から発見されています。以前、旧観海小学校の子供たちも採取したことがあります。

その他、峰浜地区の手這坂東寄りの沢でも見つかったという報告があります。

私は学生時代、男鹿半島に出かけ化石採集会に参加しました。台島集落の小浜付近のがけで初めてこの化石を探りました。それ以来化石に興味を持つようになってしまったのです。

ナウマンヤマモモってどんな植物

専門家はこの植物を「コンプトニフィラム・ナウマンニー・ナトホルスト」と呼びますがヤマモモの仲間です。

この化石と同じ植物は現在でも北アメリカ東部に生えているようですが、日本でみられる化石を調べてみると北アメリカに生えているヤマモモより葉が大きいようです。また、葉の形が変形している化石もあると言われています。

この化石からどんな事が分かるの

ある地層の中にナウマンヤマモモの化石が入っていると、その地層は男鹿半島の台島にみられる地層と同じ年代にできた地層であると考えられます。

実は台島にみられる地層の中にはナウマン・ヤマモモの他にも植物化石が発見されていてこれら化石を作っている植物は主として暖帯・亜熱帯に生えるものばかりなのです。このような植物群を「暖帯植物群」と呼んでいます。当時の気候は現在よりも暖かかっただろうと想像することができます。これら植物群をよく調べてみると、現在日本にはもう生えていない植物も含まれているそうです。この事からも、日本は大昔、今よりかなり暖かかった時代があったのです。今から二千万年ほど前の話です。

残された課題

化石の名前「ナウマンヤマモモ」からこの植物はどんな形をしていたか想像してみましょう。まず各前の先頭にある「ナウマン」はド

イツ人で、来日して地質について多く研究し、特に地質構造をまとめたことでその名が知られています。おそらくは、初めてこの化石の特徴に気付いて名前をつけたものでしょう。

ところが、化石の用語「ヤマモモ」は現在日本に生えている「ヤマモモ」(写真1)と比べると葉の形が違ってきます。ある研究者は今後の研究が進み、花・果実が葉・枝と一緒になっている化石が発見されるとその時に、葉の形があまりにも異なっている理由がきつと明らかになることでしょうか、と言っていきます。機会がありましたら化石探しをしてみませんか？



写真 1. 化石の葉の形と比べてみましょう
ヤマモモ 果期 (84.6. 神奈川県厚木市・植栽/中川)

八峰白神ジオパーク推進協議会

研究専門員 工藤 英美

〒0182632

秋田県山本郡八峰町八森字三十釜一四四一

ぶなつこランド内

TEL 0185-77-3086